第3種郵便物認可

あの夏 1982年 準々決勝 池田×早稲田実 1

甲子園のアイドルは、やまびこ打線にのまれていった。1982年夏、それは、5季連続出場の早稲田実から池田へ、高校野球界の主役のバトンタッチでもあった。あれから32年。両校の中心にいた荒木大輔と水野雄仁が語り合った。

1982年8月18日 準々決勝 第3試合 時間 2時間39分(14時27分～17時6分) 観衆 50,000人 審判 小林/中西/片岡/戸田

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	盗塁	失策
早稲田実(東東京)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1	3
池田(徳島)	2	3	0	0	0	2	0	7	×	14	1	1

得点打

早稲田実 和田明監督(45)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9
(二)	小沢 章一 3年	中安		三振			死球		四球	
(中)右中	岩田 雅之 3	三振			遊ゴ		投安		四球	
(一)	板倉 賢司 2	投ゴ			遊ゴ		左安		遊飛	
(左)	池田 秀喜 3		二ゴ		二ゴ		投ゴ		三振	
(遊)	黒柳 知至 3		三安			二ゴ	三振		投ゴ	
(投)右投	荒木 大輔 3		三振			中飛		四球		右邪
(三)	上福元 勤 2		左飛			四球		二ゴ		三振
(右)	有賀 美典 3			三振		三振				
打中	萱原 純 3							四球		
投	石井 丈裕 3									
右	杉山 達也 3									中飛
(捕)	松本 達夫 3			三振			投失	右飛		

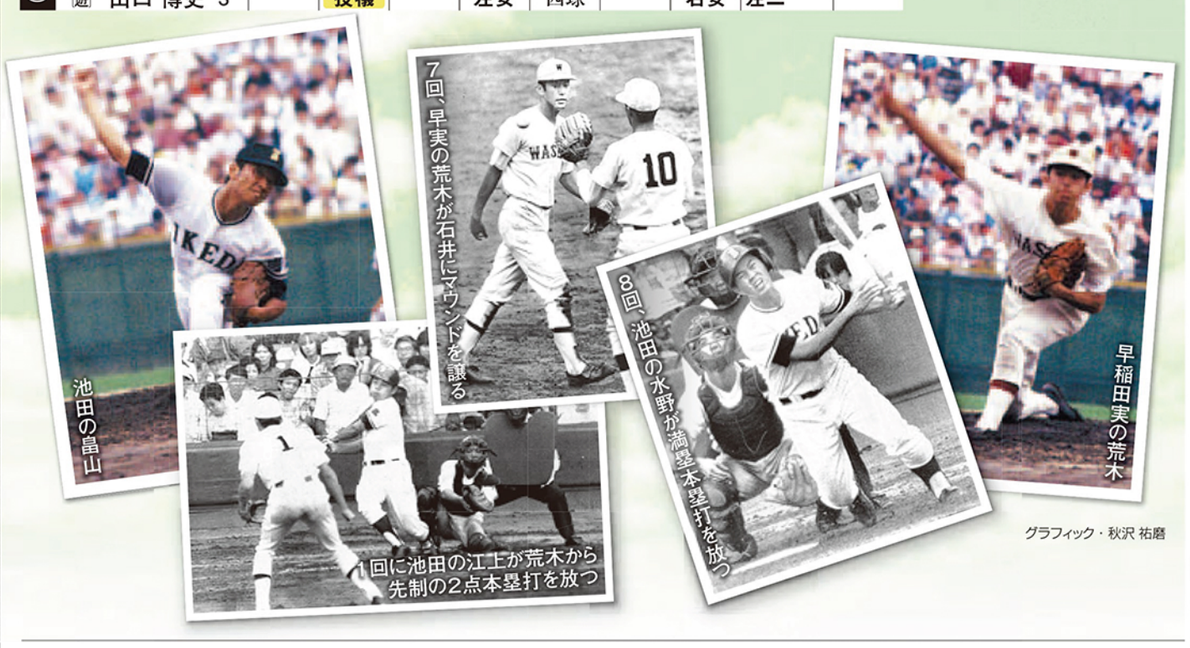
池田 蔦文也監督(58)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9
(二)	窪 靖 3年	捕妨	四球		右飛	三ゴ		三振	右二	
(中)	多田 慎二 3	三失	左二		二ゴ		一邪		中安 中安	
(右)	江上 光治 2	右本	三振		四球		遊安		四球 中安	
(投)左投	畠山 準 3	二直	投ゴ		右飛		中飛		左安 左飛	
左投左	水野 雄仁 2	遊ゴ		左安		中安	中本		左本	
(一)	宮本 修二 3		左二	一犠		右飛	三失		右飛	
(捕)	山下 和男 3		三振	三振		左二	三ゴ		中飛	
(三)	木下 公司 3		中安	三ゴ		三振		左安	左安	
(遊)	山口 博史 3		投犠		左安	四球		右安	左二	

投手成績

	投球回	打者	被安打	奪三振	四死球	投球数	自責点
荒木	6	36	12	4	3	117	6
石井	1	5	3	1	1	21	4
荒木	1	8	5	0	0	24	3

	投球回	打者	被安打	奪三振	四死球	投球数	自責点
畠山	7	28	4	7	5	106	1
水野	0	0	0	0	0	4	0
畠山	2	7	0	2	1	25	0



グラフィック・秋沢 祐磨

早稲田実OB 荒木大輔

あらき・だいすけ　東京都出身、49歳。1980年夏、早稲田実の1年生投手として甲子園に出場し、決勝で横浜に敗れる。春夏合わせて5回連続出場。82年秋のドラフト1位でヤクルトに入団。96年に横浜で引退。プロ通算39勝49敗2セーブ。現在はNHK解説者、サンケイスポーツ評論家。

池田OB 水野雄仁

みずの・かつひと　徳島県出身、48歳。2年生だった1982年夏に5番打者として池田を初優勝に導く。翌年の選抜大会はエースとして夏春連覇を達成。83年秋のドラフト1位で巨人に入団し、96年引退。プロ通算39勝29敗17セーブ。現在は日本テレビ解説者、スポーツ報知評論家。

どうにもならない力の差を感じた 荒木

水野　俺たち甲子園でニックネームがつきましたけど、荒木さん「ダイちゃん」だからいいですよねえ。俺なんか阿波の金太郎ですよ。

荒木　好きじゃなかったよ。なにしろ「ちゃん」だよ。ちょうど、そういうのが嫌な年頃じゃない。

水野　いまだにそう呼んでくれる人がいるのはうれしいですけど、当時は嫌でした。荒木さん、通学とか女の子がたくさんいて大変じゃなかったですか？

荒木　必ず同級生が電車に一緒に乗ってくれて、守ってくれた。そういうやつとは、今でも付き合いがある。

水野　ところで、荒木さんは最後の夏（1982年）は優勝を目指してましたか？

荒木　優勝はしたかったけど、なにか違ったな。それが都会のチームなのかは分からないけど、全国制覇のために厳しい練習をするのは嫌だった。早く夏休みに入りたいと思っていたぐらい。池田は？

水野　僕らはただ、甲子園に出たいだけでした。打撃練習ばかりで、これでいいのかと思ってました。今から思うと、金属バットを生かした野球を蔦（文也）監督は考えていたのかもしれません。僕らが戦うのは準々決勝ですけど、対戦が決まったとき、どう思われました？

荒木　嫌だった。主将の小沢には「池田は引くな」と言っていたぐらい。打撃はものすごく豪快だし、投手には畠山がいたし。池田はどうだった？

水野　3年生は「もう負けた」という雰囲気でしたけど、僕は畠山さんを男にしてやりたいって思っていました。生意気ですけどね。ずっと「東の荒木、西の畠山」と言われていたのに、畠山さんは3年生の夏まで甲子園に出られなかったですから。結局、池田は荒木さんから17安打で10点を奪うんですけど、荒木さんにとって、甲子園最悪の数字ですよね。

荒木　どうにもならない力の差があると感じたよ。なんで、最後に僕にこんな試合をやらせるのかなって。キンタ（水野）のバックスクリーンへの本塁打なんて、見たことない当たりだったし。

水野　あれは史上最長に飛んだんじゃないんですか（笑）。これで、俺はプロに打者でいけるって思いましたね。

荒木　プロへ行くという感覚が違うんだよね。僕らは甲子園で活躍したいだけだった。あの試合は、その上を目指す人間との思いの違いだったのかな。

（このシリーズは小田邦彦が担当します。敬称は略します）

史上最長に飛んだんじゃないかな 水野

デジタル版に荒木と水野の対談動画

スクラップブックはASAで

今年の夏で96回目を迎える全国高校野球選手権大会の名場面を振り返る長期連載「あの夏」の第2シリーズ、1982年夏、第64回大会の「池田一早稲田実」は、6月中旬まで計50回（火～土曜日に掲載）を予定しています。

このコーナーを切り抜いて貼れる専用のスクラップブック（無料）も好評です。A4サイズ全16ページで、各ページに4枚ずつ貼れます。本日紙面を2ページ使って貼っていただくと、シリーズ全体を1冊に収めることができます。

お求め、お問い合わせは、お近くのASA（朝日新聞販売所）へ。